



いずみ野

令和元年12月24日
横浜市立いずみ野小学校

伝統「もちつき大会」

副校長 中村 好宏

春に実施した「運動会」に勝るとも劣らない大きなイベント「もちつき大会」を11月30日（土）に行いました。

本校創立2年目から始めたこの取組は、今年度で41回目です。異動してきた者にしてみれば、これほど大掛かりなもちつきは初めてのことであり驚くことばかりです。



臼と杵が複数あります。さらには、蒸し器(蒸籠)がたくさんあります。全部今も使える現役の道具たち、

他校にはない財産です。

当日は、伝統ある和太鼓の演奏から始めました。



もちつきのもちは、ご存知の通り、4、5、6年生が育てたお米を使ってのもの

です。種もみを畑に蒔くところから、おもちにするまでのお米作りは、すべて田んぼの持ち主である 横山 義一 さんのおかげです。



義一さんご自身が、いずみ野小学校の伝統そのものではないかと思えてしまいます。

我らがレジェンド、義一さん、ありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。



田んぼでの作業は、3年目を迎える6年生が、下級生を上手にリードしていきました。

上級生が下級生に手ほどきをする。これもいずみ野の伝統です。

田植えから始まった今年度の本格的な田んぼでの作業は、台風や大雨の影響を受け、修復作業が度々ありました。その都度多くの方のご協力で乗り越えてきました。この力もいずみ野ならではの伝統だと思います。

そして、昨年度より少ない田んぼ面積ながら、265.2kgもの玄米が収穫できました。



今年度は例年以上にお手伝いの方が多かったと聞きました。

子供たちも大人の雄姿や手際のよさに感激しながら、おもちをつき、食することができました。



「持続」してこそ「伝統」が形成されることを、この「もちつき大会」で実感することができました。まさに、記憶と記録に残るいずみ野

小学校が誇る「もちつき大会」でした。

皆様、よいお年をお迎えください。